

滋賀県文化振興基本方針(第3次)の進捗状況について(令和3年度)

施策の柱1 場をつくる

県民誰もが文化芸術に親しみ、多様な主体や世代等がつながる場をつくる

- 1 施策の実施状況
- 2 評価指標の状況
- 3 関連する情報
- 4 評価と課題

1 施策の実施状況

重点施策1 誰もが文化芸術に親しめる場の提供

- 県立美術館を令和3年6月27日にリニューアルオープン。ジャンルの異なる企画展・常設展を各3回開催し、鑑賞の機会を提供することで延べ52,080人が展覧会を観覧。また、美術の楽しさを知っていただく機会として地域連携プログラムを43回実施し、2,044人が参加。
- 市町、文化団体、福祉団体等で構成する「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会を設置し、「文化芸術×共生社会フェスティバル」を実施。11プログラムと関連企画を実施し、9,835人が参加。
- 新型コロナにより令和2年度に中止・縮小開催をした「ホールの子」事業や学校巡回公演等のアウトリーチ事業を再開。滋賀次世代文化芸術センターの文化芸術連携授業ではオンラインを活用するなどし、子ども・若者が文化芸術に触れられる機会を創出。

重点施策2 多様な主体がつながる文化芸術活動の促進

- 「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト推進補助金を実施し、県内各地で行われているアートや暮らしの中にある美の資源を活用して地域を元気にする取組(8団体)を支援。
- 第51回滋賀県芸術文化祭を実施し、主催事業・参加事業あわせて201,405人が来場。また、美術展、写真展、文学祭において計635作品が入賞・入選。文化芸術の鑑賞機会を広く提供するとともに創作活動の発表の場を提供。
- 障害者等の多様な人が集える場づくりに向けて、「障害者の文化芸術活動を支える拠点づくり事業」を開始。県内3地域(長浜市・守山市・高島市)での場づくりの取組や関係者のネットワークづくりに向けたオンラインイベント等を実施。

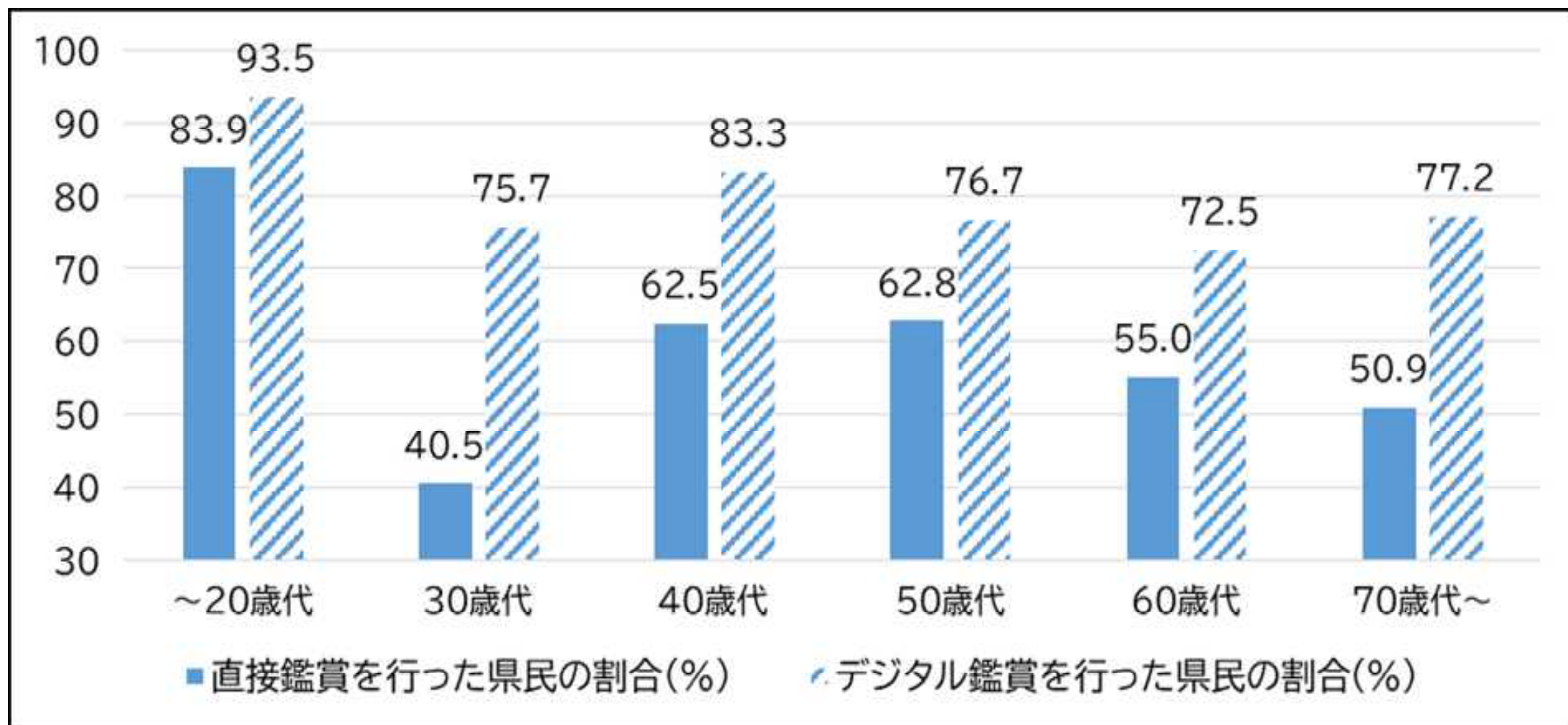
2 評価指標の状況

評価指標 (把握方法／把握時期)	策定時 (R1)	実績値						目標 (R7)
		R2(参考)	R3	R4	R5	R6	R7	
① 1年間に文化芸術を鑑賞したことの ある県民の割合 (県政モニター調査／3年6月)	73.7※	62.9※	84.4					85.0%
②文化芸術活動に取り組むことができ る環境が整っているとする県民の割合 (県政世論調査／3年11月)	38.4	39.4	41.1					50.0%
③学校と連携した文化芸術プログラムの 参加児童数 (県事業の実績から算出／4年5月)	22,699	9,707	16,623					26,000人
④民間団体や市町等と連携した文化芸 術事業実施数 (県事業の実績から算出／4年5月)	369	256	293					420件

※直接鑑賞のみの割合

3 関連する情報

「①1年間に文化芸術を鑑賞したことのある県民の割合」(年代別・鑑賞方法別)



(参考) 県政モニターアンケート 有効回答数:258人

①県政モニターの年代別人数

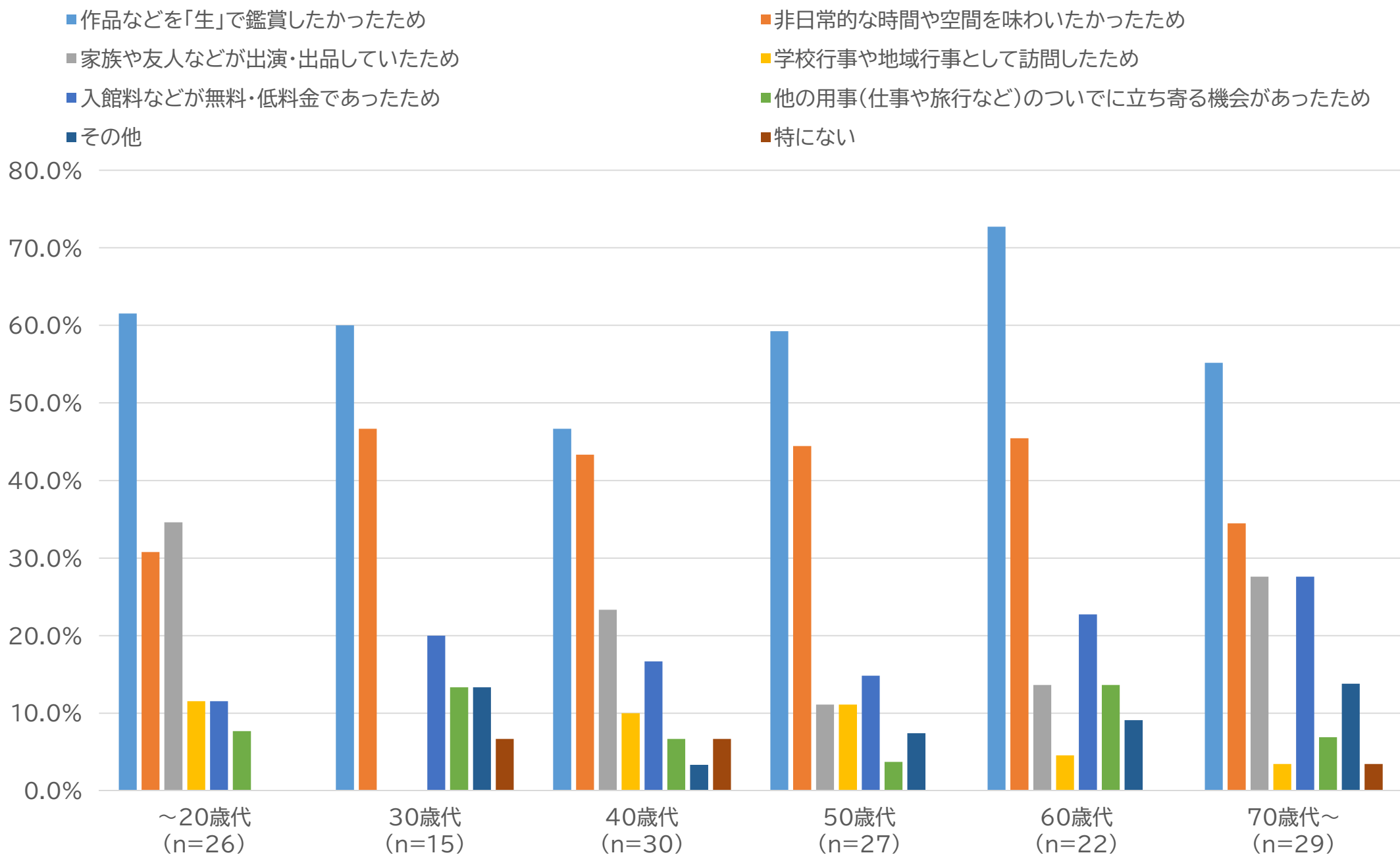
～20歳代…31人、30歳代…37人、40歳代…48人、50歳代…43人、60歳代…40人、70歳代～…57人

②県政モニターの地域別人数

大津…59人、湖南…63人、甲賀…26人、東近江…44人、湖東…27人、湖北…29人、湖西…8人

3 関連する情報

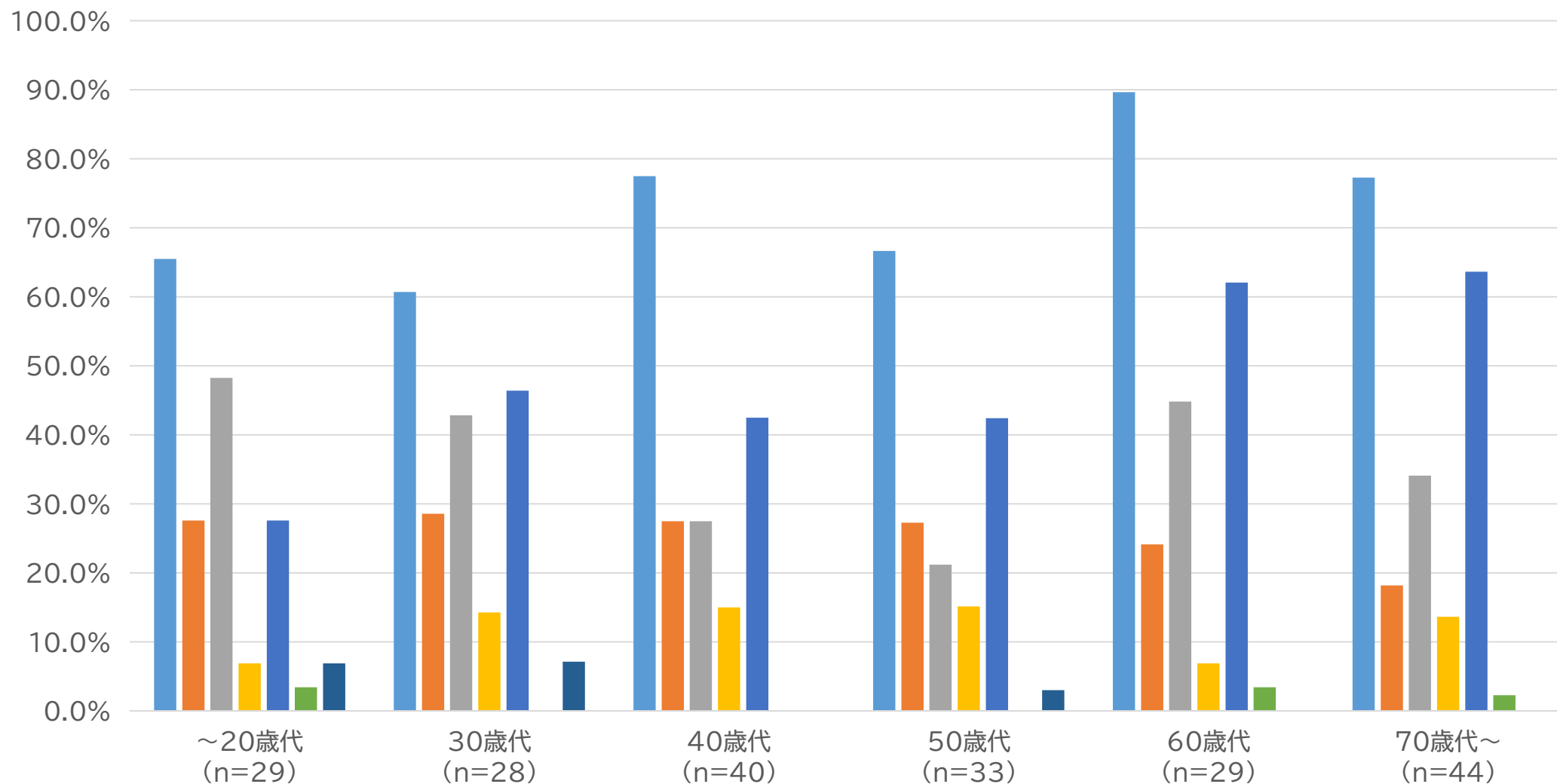
①で「直接鑑賞をした」と回答した県民のうち、直接鑑賞をした理由別の割合(年代別) ※複数回答可



3 関連する情報

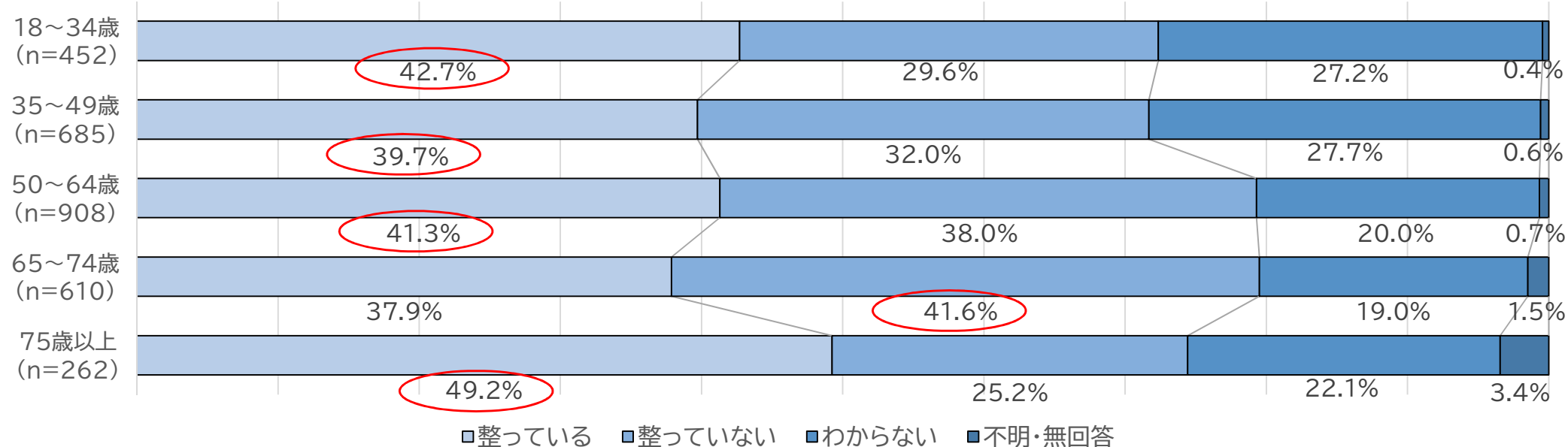
①で「デジタル鑑賞をした」と回答した県民のうち、デジタル鑑賞をした理由別の割合（年代別） ※複数回答可

- 鑑賞する時間や場所、内容を自由に選択できるため
- 電子機器でしか鑑賞できない作品のため
- 無料・低料金で鑑賞したかったため
- 文化施設などで鑑賞できる環境になかったため
- コロナ禍により文化施設などに行けなかったため
- その他
- 特にない

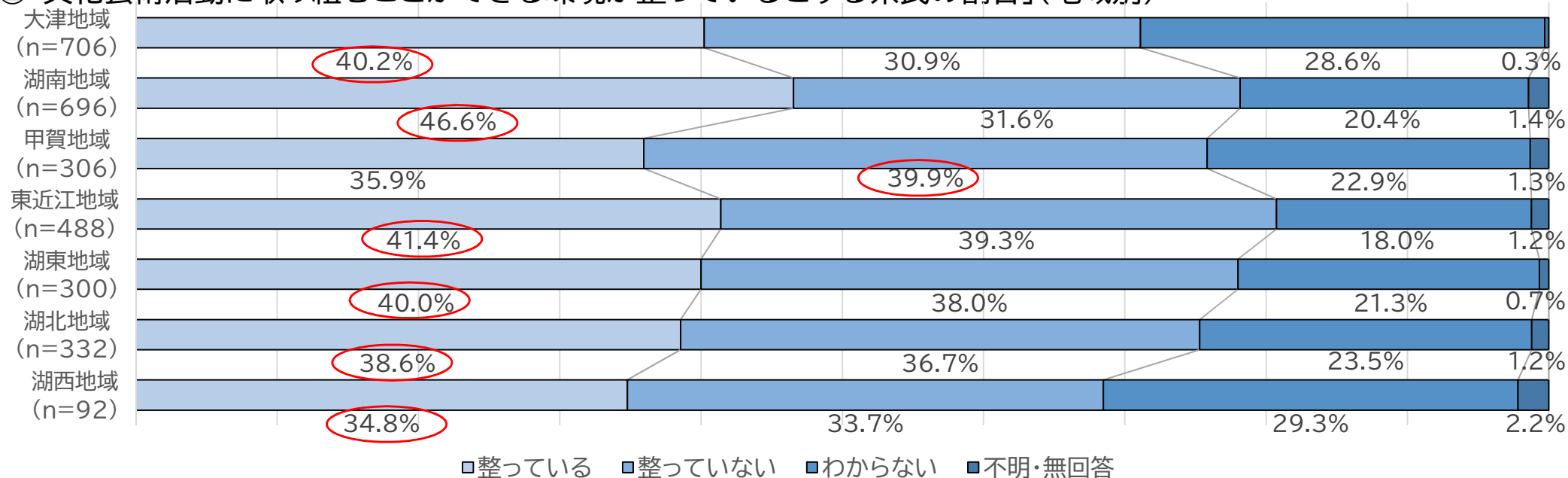


3 関連する情報

②「文化芸術活動に取り組むことができる環境が整っているとする県民の割合」(年代別)



②「文化芸術活動に取り組むことができる環境が整っているとする県民の割合」(地域別)



3 関連する情報

「③学校と連携した文化芸術プログラムの参加児童数」(地域別)

(単位:人)

	大津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	合計
「ホールの子」事業	472	2,568	872	1,407	1,097	734	3	7,153
学校巡回公演	23	251	246	476	97	0	0	1,093
ふれあい音楽教室	0	182	137	497	94	0	39	949
アートの時間・和の時間	112	175	202	143	222	49	0	903
文化芸術連携授業	2,360	1,646	262	196	215	0	0	4,679
美ココロ・プログラム	103	133	9	0	0	0	0	245
学校出前授業プログラム	14	573	105	693	102	61	53	1,601
合計	3,084	5,528	1,833	3,412	1,827	844	95	16,623
<参考>								
各地域の児童数 (小・中・特支・義務教育学校・ 各種学校の合算)	28,816	33,307	12,180	20,043	13,825	12,927	3,228	124,326
各地域の児童数に対する プログラムの参加割合	10.7%	16.6%	15.0%	17.0%	13.2%	6.5%	2.9%	13.4%

3 関連する情報

「④民間団体や市町等と連携した文化芸術事業実施数」(地域別)

	大津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	オンライン	合計
芸術文化祭参加事業数	47	29	3	28	11	31	6	0	155
「滋賀をみんなの美術館に」 プロジェクト実施数	18	5	1	5	2 (3)	18	0	3	52
美の糸口・アートにどぼん！ 実施プログラム数	27	0 (4)	0	0 (2)	0 (1)	0 (1)	0	0	27
ふらっと美の間民間施設設置数	2	1	1	0	0	1	0	0	5
地域出前プログラム実施箇所数	3	4	2	3	0	1	0	0	13
アートコラボレーション事業数	2	3	0	4	0	1	1	0	11
文化芸術×共生社会プロジェクト 事業数	3	2	1	0 (1)	0 (1)	5	0 (1)	1 (2)	12
障害者等の文化芸術活動を支える 拠点づくり事業数	0	1	0	0	0	1	1	0	3
近江の春びわ湖クラシック音楽祭 サテライト実施数	0	1	0	1	0	0	0	0	2
びわ湖・アーティスト・みんぐる 実施数	0	0	1 (3)	5	0 (1)	2 (3)	0	1	9
舞台芸術地域協働事業実施数	1	0	0	1	0	0	0	0	2
展覧会関連イベント	0	0	0	2	0	0	0	0	2
合計	103	46	9	49	13	59	8	5	293

※ ()内は、実施数に含めないが、関連事業として実施したもの

4 評価と課題

- 指標①の1年間に文化芸術を鑑賞したことのある県民の割合は84.4%となっており、目標の達成に近い。特に30歳代は直接鑑賞の割合が低いが、デジタルの利用により文化芸術を鑑賞している。
- 指標②の文化芸術活動に取り組むことができる環境が整っているとする県民の割合は41.1%となっており、策定時から2.7%上昇した。
- 指標①②について、県や(公財)びわ湖芸術文化財団では、民間団体等と連携して「文化芸術×共生社会フェスティバル」を県内全域で実施したり、オンライン配信を活用して「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」等を実施している。今後も多様な環境下でも文化芸術活動に取り組める環境を充実させていく必要がある。
- 指標③の学校と連携した文化芸術プログラムの参加児童数は、新型コロナウイルスの影響により策定時から6,076人減少した。県や(公財)びわ湖芸術文化財団では、学校などと連携して感染対策に万全を期して、「ホールの子」事業や学校巡回公演等を再開することができた。今後は、参加校が増加するよう広報しながら引き続き実施していく。
- 指標④の民間団体や市町等と連携した文化芸術事業実施数は、新型コロナウイルスの影響により策定時から76事業減少した。コロナ禍でも事業数は徐々に伸びてきている状況であり、新型コロナ対策の補助金を活用しながら、引き続き各主体の自立的な文化芸術活動を促進していく。

施策の柱2 人を育む

文化芸術をつなぎ支える人材や文化芸術の創り手や継承者を育む

- 1 施策の実施状況
- 2 評価指標の状況
- 3 関連する情報
- 4 評価と課題

1 施策の実施状況

重点施策3 文化芸術をつなぎ支える人材の育成・確保

- 「文化行政担当者、文化施設管理・運営者向け研修」や「福祉と芸術をつなぐラウンドミーティング」において、文化活動者を支える行政・文化施設の役割や福祉と芸術のつながり方について行政担当者や文化施設関係者に考えてもらう機会を創出。
- 滋賀次世代文化芸術センターの「美ココロ・パートナーシップ事業」では、適応指導教室や特別支援学校等27校（施設）に11人の美ココロ・パートナーを派遣。

重点施策4 文化芸術の創り手や継承者の育成・支援

- 選定保存技術保持者に対し、後継者育成を目的に国指定文化財保存修理等補助金を交付するとともに、選定保存技術保持者等に助言を行った。
- 県立文化産業交流会館イベントホール内に特設する芝居小屋「長栄座」において、人と人、地域と地域を結ぶことをテーマとした公演制作事業長栄座伝承会「むすひ」を2日間2公演開催し、477人が来場。当日は、第一線で活躍する実演家とともに古典芸能キッズワークショップ修了生や地元児童合唱団が出演し、創り手や継承者の育成・支援を実施。

施策の柱1・2 共通施策(新型コロナウイルス対策)

- 「未来へつなぐしが文化活動応援事業」は、感染症対策を実施しながら再開する文化活動に対し、226件34,734千円の補助金を交付。「文化芸術公演支援事業」では、感染防止対策を実施し、県内文化施設で文化芸術公演を行う利用者に291件20,199千円の施設使用料の補助金を交付。

2 評価指標の状況

評価指標 (把握方法／把握予定時期)	策定時 (R1)	実績値						目標 (R7)
		R2(参考)	R3	R4	R5	R6	R7	
⑤ 1年間に文化芸術の創作活動に携わったことのある県民の割合 (県政モニター調査／3年6月)	63.5※1	55.6※1	26.6※2					77.0%
⑥ 研修で得た知識や技術を今後の活動に活かせると回答した受講生の割合 (県事業の実績から算出／4年5月)	—	—	90.6					80.0%
⑦ 県立文化施設の文化ボランティア数 (県事業の実績から算出／4年5月)	635	592	612					750

※1…創作活動のみの割合

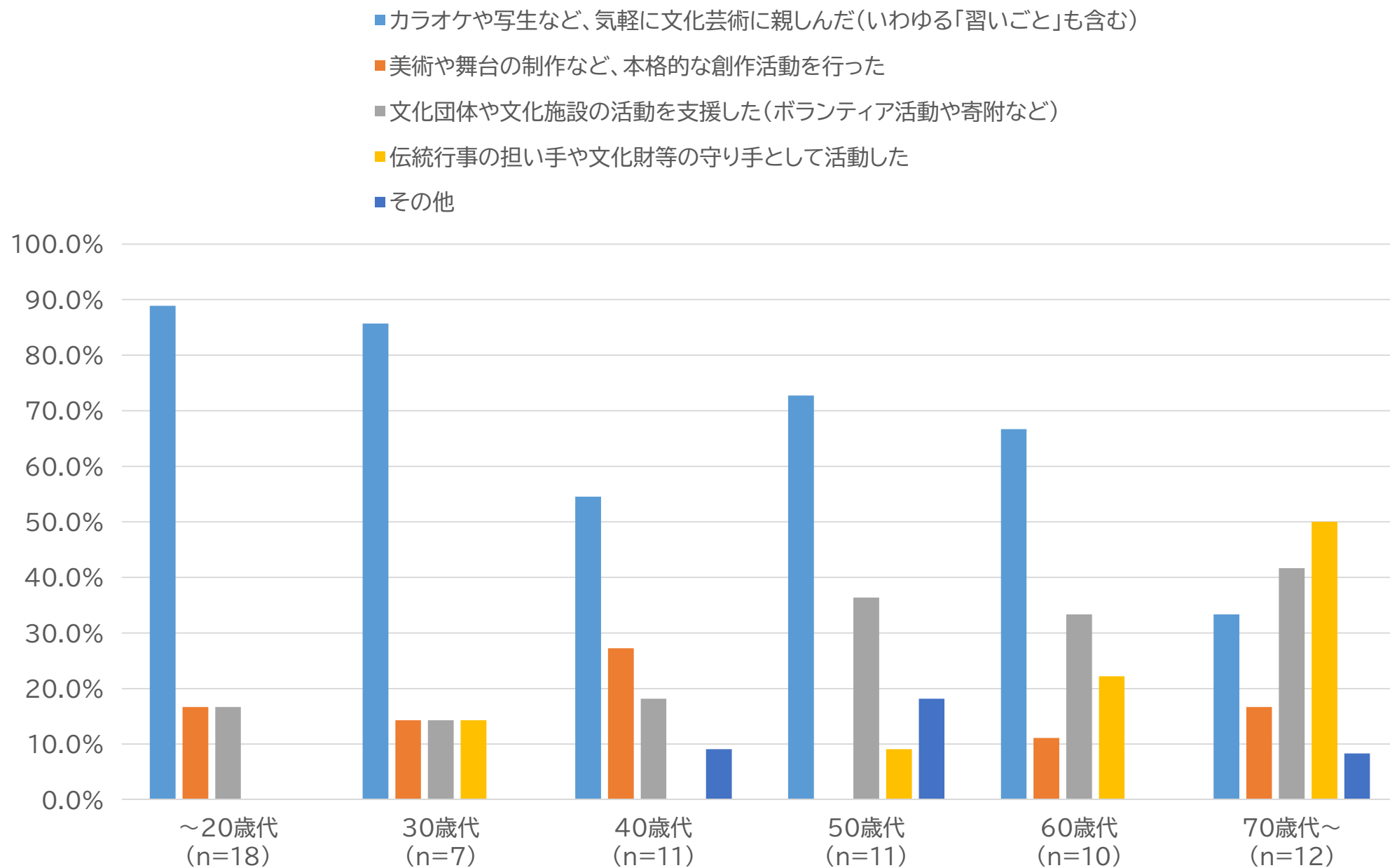
※2…令和3年度調査から質問項目を変更している。

(令和2年度)この1年間にあなた自身がされた文化創作活動は何ですか。

(令和3年度)過去1年間に、あなたは文化芸術活動を行いましたか。ただし、「鑑賞」のみの場合は除きます。

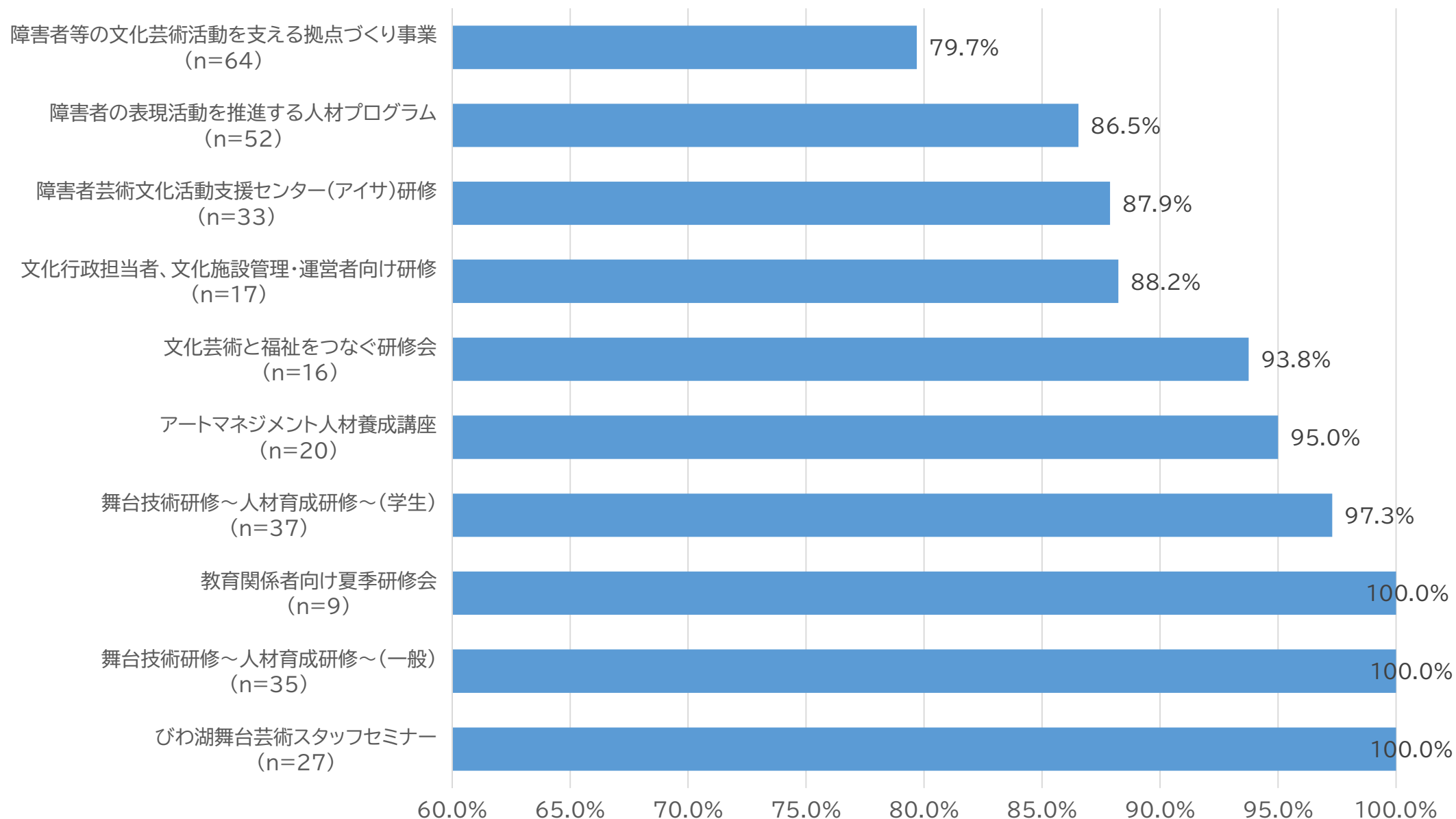
3 関連する情報

「⑤1年間に文化芸術の創作活動に携わったことのある」と回答した県民のうち、創作活動別の割合(年代別) ※複数回答可



3 関連する情報

「⑥研修で得た知識や技術を今後の活動に活かせると回答した受講生の割合」(事業別)



3 関連する情報

「⑦県立文化施設の文化ボランティア数」(地域別)

単位:人

	大津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	県外	合計
びわ湖ホール劇場サポーター	65	9	1	7	2	3	2	47	136
美術館ボランティア	22	8	2	2	0	0	0	3	37
琵琶湖博物館はしかけ制度									393
滋賀次世代文化芸術センター 登録ボランティア	2	2	0	1	1	0	0	12	18
陶芸の森登録ボランティア	8	10	5	3	0	0	0	2	28
合計	97	29	8	13	3	3	2	64	612

4 評価と課題

- 指標⑤の1年間に文化芸術の創作活動に携わったことがあると回答した県民の割合は、質問内容において「鑑賞のみ」を除くことを強調した結果、26.6%となった。県では滋賀次世代文化芸術センターへの支援を通じて、子どもたちが芸術家から直接指導を受けることにより、創作の楽しみなど文化芸術の魅力を学ぶ機会を提供しており、教育と文化施設・芸術家をつなぐ取組を継続していく。
- 指標⑥の研修で得た知識や技術を今後の活動に活かせると回答した受講生の割合は90.6%と目標値を超えた。県や(公財)びわ湖芸術文化財団では、「福祉と芸術をつなぐラウンドミーティング」や古典芸能の後継者等を育成する講座など、行政だけでなく文化施設や福祉施設とも一緒に人材育成に取り組んでおり、継続して文化芸術をつなぎ支える人材育成に取り組む。
- 指標⑦の県立文化施設の文化ボランティア数は策定時から23人減少したが、令和3年度から主にびわ湖ホール劇場サポーターや美術館ボランティアが増加しており、今後も文化ボランティアの確保に努めていく。
- 新型コロナ対策として2種類の補助金の創設により2年間で863件の事業を支援し、公演等の活動機会を失った文化活動者の活動再開・継続につなげた。令和4年度も施設使用料の1/2を支援することにより、文化活動者の活動継続につなげていく。

施策の柱3 地域や社会に活かす
文化芸術の多様な価値を地域づくりや他分野に活かし、活力ある滋賀を創る

- 1 施策の実施状況
- 2 評価指標の状況
- 3 関連する情報
- 4 評価と課題

1 施策の実施状況

重点施策5 地域で育まれてきた文化的資産の発掘・保存・活用

- 令和3年3月に策定した、(仮称)新・琵琶湖文化館基本計画に沿って整備を推進。PFI詳細検討を実施し、PFI手法が適するとの評価を得るなど、令和9年度の開館に向けて、基本計画のスケジュールに沿って事業を推進。
- 彦根城の世界遺産登録に関して国の文化審議会から示された課題について、重点的に調査・研究を進め、推薦書原案の完成度を高めるとともに、彦根商工会議所、滋賀県立大学と協働し、寄付講座を行うなど、発信に努めた。
- 特別史跡安土城跡整備基本計画前半部を作成し、『デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画』を策定。「安土山図屏風」探索に向けてHPを多言語化し、チラシを配布。

重点施策6 文化芸術と他分野との有機的な連携の促進

- アール・ブリュットネットワークメールマガジンを12回発行し、アール・ブリュットに関わる情報を発信。また、アール・ブリュットネットワークフォーラムをオンラインで開催。
- 東近江市立八日市文化芸術会館にて、親子向けオペラ「泣いた赤おに」を上演。舞台上の装飾や小道具には地場産品を用い、会場では、舞台に登場した地場産品の展示販売会「近江のおくりもの展」を開催し、産業分野とも連携して事業を実施。
- 文化活動者と経済界で組織されている文化・経済フォーラム滋賀の活動に対して補助金を交付。文化・経済フォーラム滋賀では、近江鉄道とその沿線を会場に、電車を使ったツアー型ライブや地域コーディネーター育成講座などを実施。

2 評価指標の状況

評価指標 (把握方法／把握予定時期)	策定時 (R1)	実績値						目標 (R7)
		R2(参考)	R3	R4	R5	R6	R7	
⑧県内の指定文化財等の数 (国・県・市町の指定等実績から算出 ／令和4年5月)	3,465	3,500	3,522					3,585
⑨文化財を活用した県実施事業参加者数 (県事業の実績から算出／令和4年5月)	2,813	3,017	3,337					3,160
⑩地域に魅力や誇りを感じる文化芸術 資源があるとする県民の割合 (県政モニターアンケート／令和3年6月)	—	—	70.7					85.0
⑪地域において文化芸術と他分野との 連携した取組があるとする県民の割合 (県政モニターアンケート／令和3年6月)	—	—	60.9					50.0

3 関連する情報

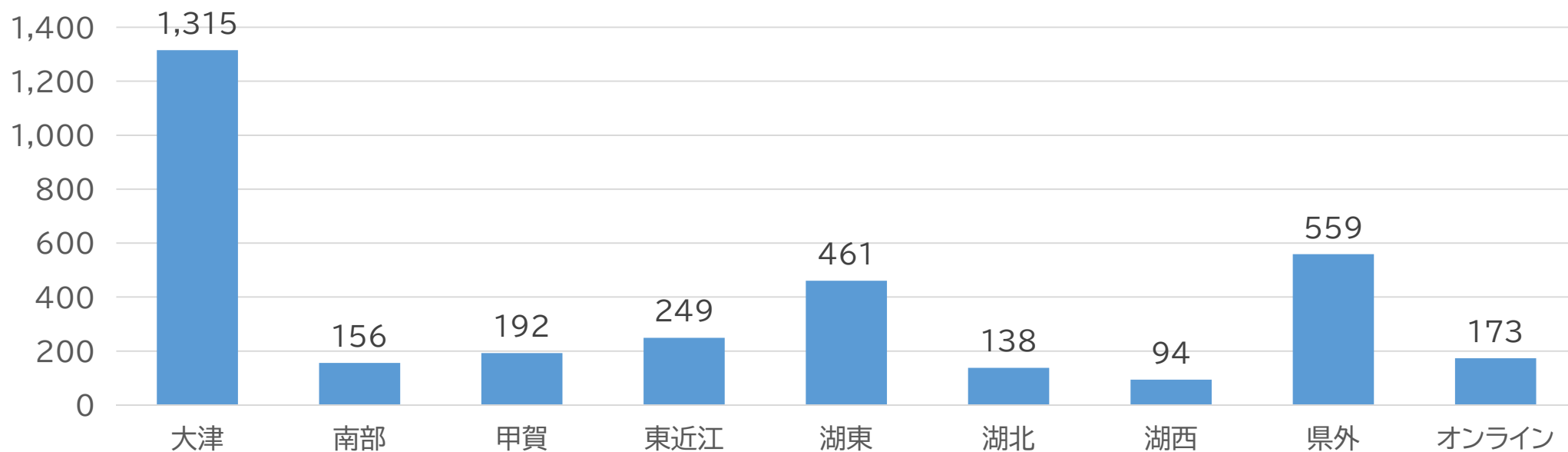
⑧「県内の指定文化財等の数」(地域別)

単位:件

	大津	南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	県内一円	合計
国指定	468+1/2	137+2/3	124+1/3	335+1/2	160	168	32	1	1,427
県指定	88	70	56	101+1/2	47+1/2	124	23	6	516
市町指定	126	249	211	355	172	344	122	0	1,579
合計	682+1/2	456+2/3	391+1/3	792	379+1/2	636	177	7	3,522

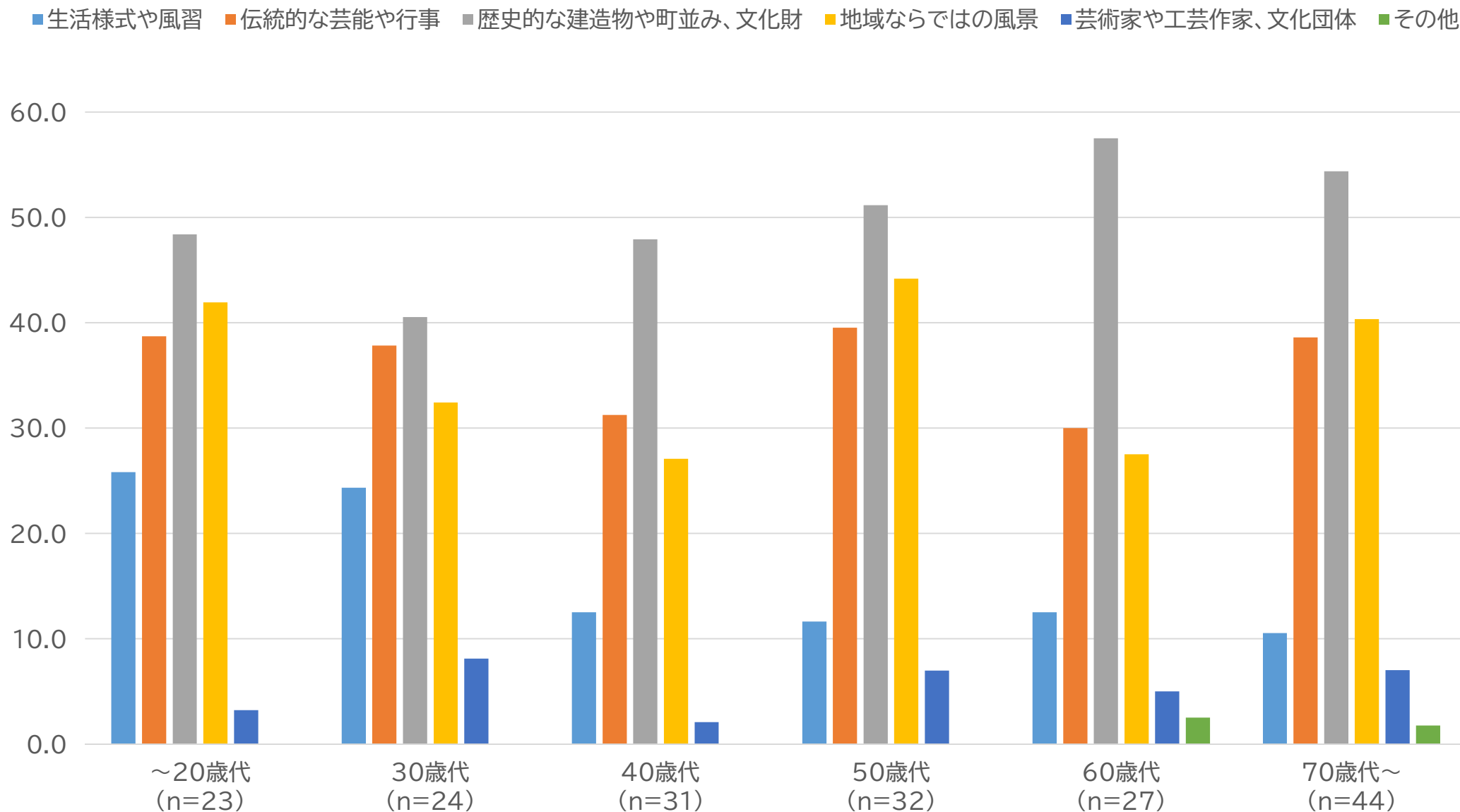
⑨「文化財を活用した県実施事業参加者数」(地域別)

単位:人



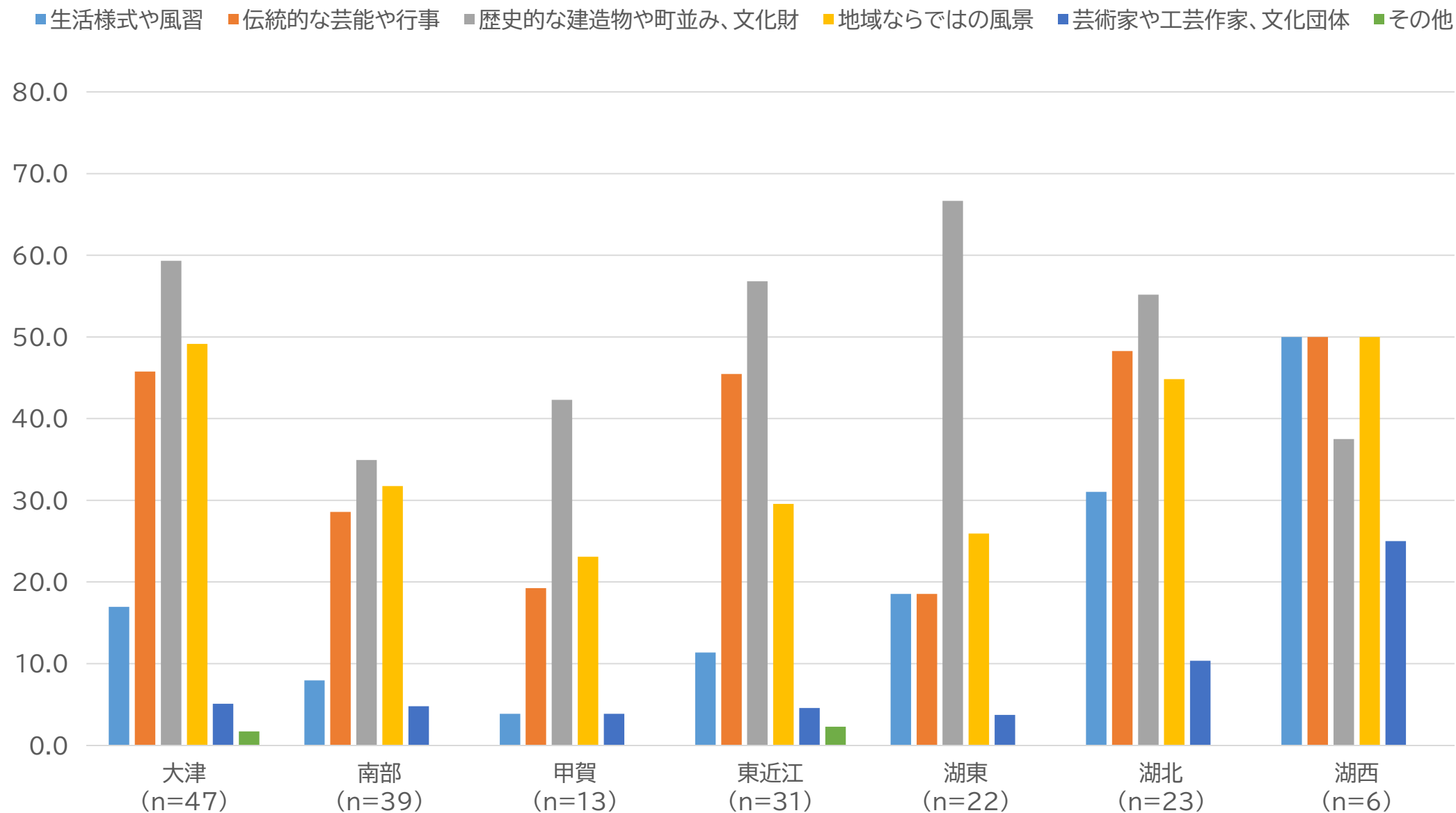
3 関連する情報

「⑩地域に魅力や誇りを感じる文化芸術資源がある」と回答した県民の内訳(年代別) ※複数回答可



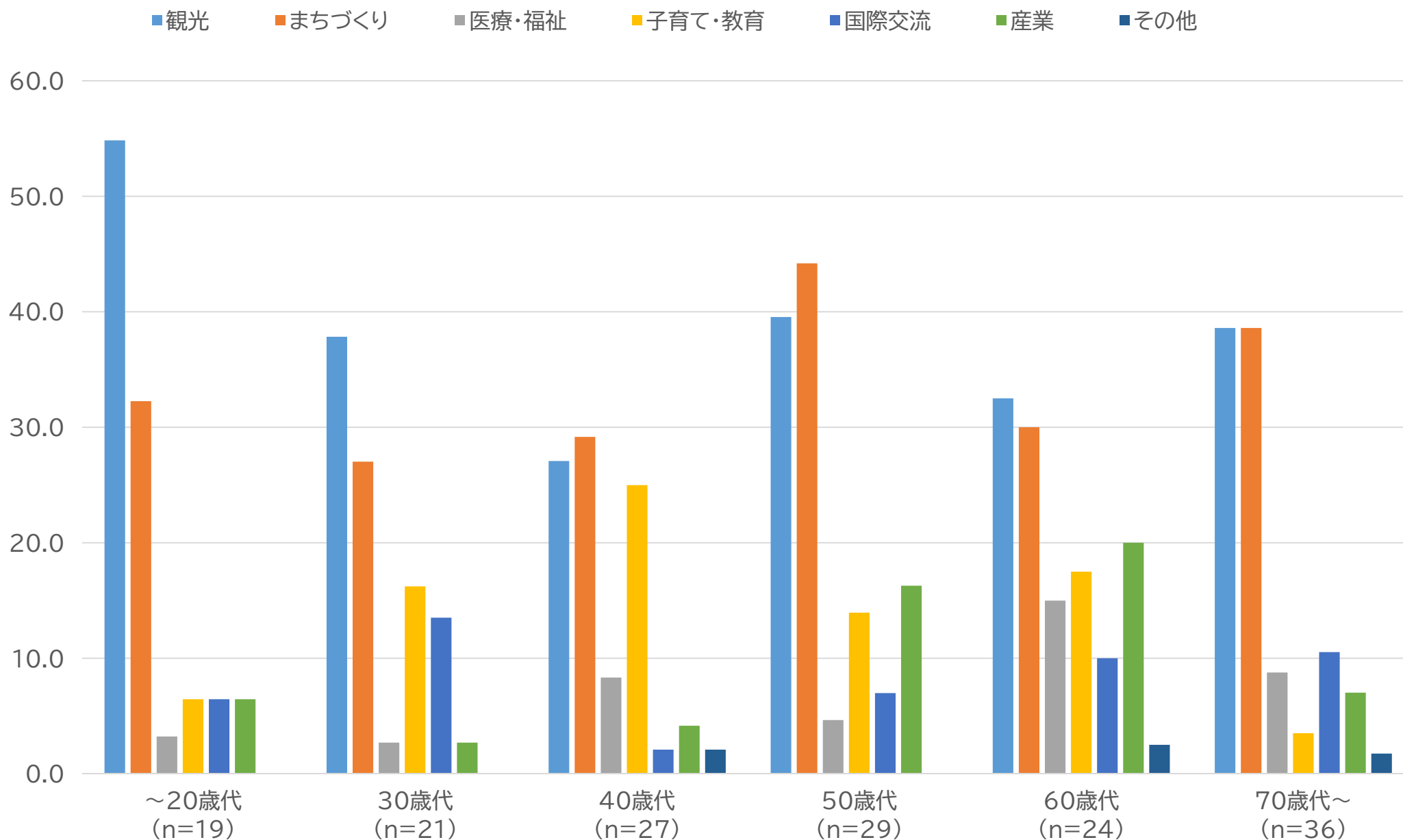
3 関連する情報

「⑩地域に魅力や誇りを感じる文化芸術資源がある」と回答した県民の内訳(地域別) ※複数回答可



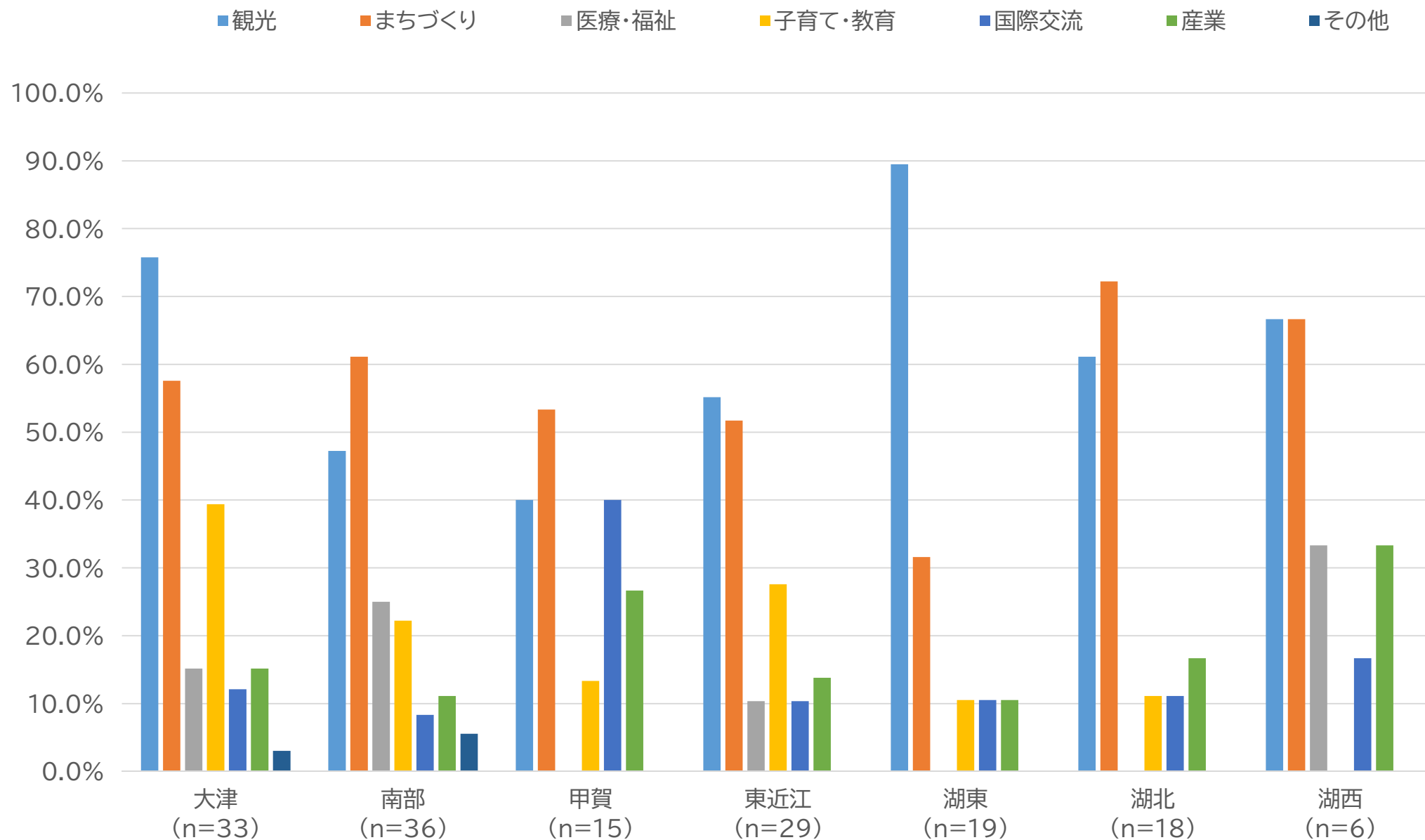
3 関連する情報

「⑪地域において文化芸術と他分野との連携した取組がある」と回答した県民の内訳(年代別) ※複数回答可



3 関連する情報

「⑪地域において文化芸術と他分野との連携した取組がある」と回答した県民の内訳(地域別) ※複数回答可



4 評価と課題

- 指標⑧の県内の指定文化財の数は策定時から57増加した。また、指標⑨の文化財を活用した県実施事業参加者数は策定時から524人増加し、目標に達した。県では職員による出前講座を積極的に実施するとともに、講座等のオンライン配信や文化財紹介動画の配信を行うなど、コロナ禍の新たな取組も実施しており、継続して文化財の価値を発信していく。
- 指標⑩の地域に魅力や誇りを感じる文化芸術資源があるとする県民の割合は70.7%となった。県では「近江の城」魅力発信事業や文化財を活用した県民・地域健康増進事業等を実施しており、文化的資産やそれらを育んできた地域に対する理解や関心を深め、未来へ着実に継承していく。
- 指標⑪の地域において文化芸術と他分野との連携した取組があるとする県民の割合は60.9%となり目標を上回った。県と(公財)びわ湖芸術文化財団では地場産業と連携したオペラを創作し、舞台に登場した地場製品の紹介と販売会を併せて開催するなど、産業・観光分野と連携した事業を実施しており、今後も文化芸術の多様な価値を地域づくり等に活かしていく。